

# 球児たちは今

2015出場校アンケートから

1

## 監督が課した猛練習こなす 主体的なスタイルに

### ①上野学園

「美化班」に分かれて部を運営する。

今月中旬の放課後。茨城県つくば市にある練習場へ向かうバスの車内で上野学園(台東区)の下川健太主将(3年)が練習メニューを発表した。「アップはハードルとうさぎ跳び。その後はキャッチボールと打撃練習」  
毎日のメニューは部員でつくる「戦略班」が話し合っていて決めている。指導者が課す猛練習をひたすらこなすのは違うスタイルが今、広がっている。

### ②大泉

用具室前ですらりと並ぶ

A4判ほどの大きさのホワイトボード。大泉(練馬区)は全部員が練習前、「マイホワイトボード」に課題を書き込む。「必ず初球を振る」「次の塁を積極的に狙う」……。自ら目標

# 部員が「戦略班」「肉体改造班」



うさぎ跳びをする上野学園の部員ら。「自分たちで決めるとやる気が出る」—茨城県つくば市



大泉の用具室の前には部員たちが練習目標などを書き込んだ「マイホワイトボード」がずらりと並ぶ—練馬区東大泉5丁目

## ボードに自らの課題記入、視覚化

を決め、視覚化することで意欲を高める狙いだ。練習試合で打ち急いでしまったという八代和樹主将(3年)は「引きつけて逆方向へ」と書いた。それぞれ書くだけで回し読みはしないが、お互いこっそり読んで助言をすることもある。「読まれていると思うと、より意識が高まる」と八代君は話す。

### ③学習院

学習院(豊島区)は練習の反省や次の目標を書き込むA3判の専用シート「野球ノート」を作っている。週に一度、滝沢拓也監督(39)に提出する。就任した8年前に比べ、直接質問にくる部員が減ったと感じ、3年前から始めた。続けていると滝沢監督にとっても思わぬ発見があった。4月、中堅手の小堀正大

## 自主性とゆとりは必要。でも最終的な責任は指導者

帝京で40年以上指導 前田三夫監督(66)



私が高校生だったころや監督になったばかりのころ、監督や先輩への返事は「はい」と「分かりました」だけ。我慢して長く練習すれば甲子園に行けると思っていました。

平成に入って「自主性」という言葉をよく聞くようになりました。指導が厳しすぎると問題になったからではないでしょうか。

これも時代の流れかと、部員にまかせた時期もありました。甲子園に行った時、宿舎の外に行きたいと言えば出すようにしました。そしたら試合当日、ゲームセンターに遊びに行った部員がいた。自主性をはき違えた結果がこれ。応援してくれた人に申し訳なかった。

指導に行き詰まり、野球の原点を探ろうと米国に行きました。パドレスとヤンキースの試合を観戦した時のことです。パドレスのファンはチームが劣勢でも立ち上がって拍手を送っていた。これだ、こういう野球をやらなくてはと思いましたね。

スパルタ指導の時代は終わりました。自主性とゆとりは必要だと思えます。でも、最終的な判断、責任は指導者が負うべきだと思っています。(談)

### こんな回答もありました

- ①水分と栄養補給のため、練習中に自由に飲食を許可 (墨田工・中島豊雄監督)
- ②指導方針を押しつけ金太郎アメを作っていた時代もあったが、今は個性を伸ばすことに重点 (葛飾野・沖山敏広監督)
- ③練習時間を短縮。個人ノックなど追い込み練習もしなくなった(大崎・橋本康徳監督)
- ④「やらされている練習」では限界があると感じ、メニューを選手に決めさせている (明星・石山敏之監督)
- ⑤10年ほど前からスパルタ方式の管理野球はやめ、生徒主導で自主性を育てる指導方針に変えた (世田谷学園・成瀬智監督)
- ⑥トレーニング、栄養、メンタルなど様々な指導を専門家に外注するようになりレベルが上がった (開成・青木秀憲監督)

「まだまだいける。こんなもんじゃないだろう」  
雰囲気があつと軽くなつた。次の回から強い当たりが生まれ、打線がつながった。試合は負けてしまったが「チームに粘り強さが生まれた」と滝沢監督は手応えを感じている。  
「しっかりと考えを持ってきているのに、それを表に出す子が昔より少なくなつたように思う。ノートは、部員の長所を引き出す手がかりになる」

時代とともに技術面でも生活面でも球児の姿は変わってきました。今年は高校野球が始まって100年の節目。東・西東京大会に出場する計272校へのアンケートをもとに、球児の「今」を探ります。

この連載は浦島千佳、加藤勇介、矢島大輔が担当します。